

2014年2月28日

由布市議会の皆さまへ(市長にも出しました)

湯布院町 谷 千鶴

挾間上水道の新水源の提案と、再検討を求めているお願い

平成23年3月、市は水道ビジョンを策定しました。今後10年間の目標として、漏水・地震対策のための水道管や設備の更新、安全でおいしい水の確保、健全で持続可能な経営、などをうたっています。

水道ビジョンのパブコメ募集の時、ある市民の意見書を読んだ当時の副市長が、その方を水道課に招いて詳しい話を聞き、案を練り直したと聞いています。当時の副市長は土木技術系の方で、意見を寄せたのが上下水道の技術士さんです。その時の経験が今も水道課の業務に活かされているなら嬉しいです。

市は挾間町の新水源になる地下水の調査をするそうですが、朝日新聞の記事を読むと、水郷日田と違って由布・鶴見の麓なので、簡単ではなさそうです。気になってその技術士さんに尋ねてみました。下記(1)の理由で「5億円宝くじに当たるようなもの」だそうです。

さらに、「河川水揚水の電気代が3,000万円/年というが、井戸水でも揚水の電気代は必要」「浄水費は大幅に減ると予測されるが、幸いにして有望な井戸水源が見つかったの話」「上水道全体のコスト削減には有収水量率の向上が不可欠で、新水源と関係なく、早急に抜本的な対策が必要」とのことでした。

水道ビジョン3年目にあたる昨年9月、監査委員が「市の上水道・簡易水道の漏水が毎年2億円」と指摘しました。浄水コストの高い挾間が占める割合が大きいです。水道料金にしろ一般会計からの繰入にしろ、結局は市民が毎年負担しているお金です。挾間上水道の有収率は年々低下して、H24年度は73.8%とか。全国の市町村の目標値は95%だそうです。せめて、実績平均の90%程度にはしていただきたいです。

ところで、つい先日、「元治水井路を使えないかと、市が業者に委託して隧道の点検調査をし、別府市企業局を訪問し情報を集めた」という話を聞きました。私は元治水は農業用水とあって、別府市の上水道源の多くをまかなっているとは知りませんでした。

調査は平成23~24年度のことだそうです。その後、様々に検討されて見込みがないので地下水を探すことになったのでしょうか？情報公開請求しましたが、

公開まで日数がかかります。議員さんのほうでも、調べてくださいますか。

井路組合のお話では「別府市は水路使用料(日常の管理点検、水質保全)と補修費用とを負担しているだけで、水利権は関係無い」そうです。挾間に引く場合は「途中に発電所があるので九電との関係があるが国交省が仲立ちしてくれるのではないか」とのことでした。

素人の私には、宝くじのような地下水より、目の前を流れている水路の方が確実な気がします。これから環境基本計画が具体化します。水源流域の環境保全にいつそう気を配りたいです。

水道課長さんに尋ねたところ「元治水の可能性も調べている」とのことでしたが、県も「例がないのでは」と言っている地下水調査を急いで同時進行する必要があるのか、よく理解できません。

地下水も井路もその他のいろんな新設備も候補にして、パブコメを寄せてくれた納税者目線の専門家など、技術・経営に詳しい市民にも参加してもらって、挾間の新水源(新浄水施設)を具体的に検討する組織が市にできるといいと思います。

どうか、議員の皆さんのお力添えをお願いします。

記(1) 地下水に期待できない理由

由布・鶴見岳の伏流水による湧水等は挾間地域方面では豊富でないと思われる。掘れば地下水脈には当たるだろうが、問題は水質と水量だ。飲用に適さない地下水も少なくない。井戸は未来永劫使えるものではなく、水量・水質の変動、井戸枯れの危険性があり、掘り直しも日常茶飯事である。井戸径にもよるが、掘削には一カ所当たり千万円単位の費用が必要であり、長期にわたって9,000トン/日の給水量を確保するために、いったい何本掘れば良いのか予測するのは大変難しい。

記(2) 「カビ臭」対策について

朝日新聞によれば、カビ臭は上流の発電用ダムの富栄養化による植物プランクトンが原因のように書いてある。このように植物プランクトンや有機性汚濁物を原因とするカビ臭は、大都市圏の人口密集地では日常的に発生する状態で、通常の物理処理(塩素注入、凝集剤添加+急速濾過、活性炭吸着)では十分な浄水効果が得られない。解決策は固着性微生物を利用する方法(生物活性炭処理など)の併用や、膜処理の併用だが、処理費も大きく増加するので十分な検討が必要となる。

元治水井路の水を使うなら、上流部に長期の滞留時間を有する池などが無い限り、植物プランクトンを原因とする問題が発生しない可能性が高く、通常の処理で足りるのではないかと。